

グローバル時代に生きる幼児教育の取り組み

長深田 悟

正会員 長深田教育再生研究所・所長（〒230-0074横浜市鶴見区北寺尾5-7-20）

E-mail: info@kitateraomutsumihoikuen.com

脳科学者によると、脳は母親の胎内で成長し400グラムで生まれる、8歳頃までに1250グラム、成人は1350グラムまでに成長する。つまり8歳までに脳は90%が成長することになる。8歳までを臨界期ととらえ、臨界期により良い刺激が必要となる。

長深田教育再生研究所はより良い刺激を、「読み」「書き」「計算」「体操」「音楽」「絵画」「パズルやブロック」により「学ぶ力」「体の力」が身に付くと考え、一方「心の力」を身に付けるために東北大学の川島隆太教授また故森信三先生の考えのもとに「基本的生活習慣」の徹底と井之上喬氏の自己修正理論のもと「絵本」による取り組みを実践した。その実践を述べたい。

Key Words : 脳科学、絵本、Nakanaori、パブリックリレーションズ、自己修正

1. はじめに

30年前MRIが発明された。それまで、動物実験や亡くなった脳だけの解明であったが、MRIにより脳の構造や機能が解明されてきた、脳科学の研究者である元北海道大学澤口俊之教授は次の様に述べている。¹⁾

「脳は生後から8歳頃までに急速に成長します。生後400グラムの脳は5歳から8歳頃までで1250グラムに成長し、成人の脳は1350グラムに成長。8歳頃まで90%が出来上がることになる。この時期を臨界期ととらえ、よりよい刺激を与え脳を作る必要がある。より良い刺激を求め、脳科学者の理論のもと実践し追及してみたい。

するときに使われる知能。さまざまな数学的・論理的な記号を記憶し、理解して、それを操作する。

- ④ 音楽的知能～歌を歌ったり、楽器を演奏したり、音楽を鑑賞したりするときに使われる知能。
- ⑤ 音の並びからメロディを聴き取り、記憶し、その知や 経験をもとに歌ったり演奏したりするときに働く。
- ⑥ 絵画的知能～絵や図形を見て理解したり、描いたりするときに用いられる知能。
- ⑦ 身体運動的知能～手を細かく使ったり、道具を使ったり、スポーツをしたりするというような、身体づくりを意図的に行うときに働く知能。

2. より良い刺激と多重知能¹⁾

脳は多重知能と呼ばれ知能的に6つの領域に分かれる、アメリカの心理学者であり脳科学者であるガードナーは6つの領域を次の様に分類している。¹⁾

ガードナー理論によると6つの知能領域に次のような刺激が必要であると述べている。「読み」「書き」「計算」「体操」「音楽」「絵画」「ブロック・パズル」の刺激を与えると脳が作られ「学ぶ力」「体の力」が身に付く。

- ① 言語的知能～会話や読書、文章を書くときなどに用いられる知能。言葉を見たり、聞いたりして記憶したり、操ったりする役目を担う。
- ② 空間的知能～自分や物体がどの位置に、どのくらいの速さで、どういう位置関係で存在しているかを認識・記憶する知能。
- ③ 理論・数学的知能～計算や暗算、論理的な思考を

3. 「学ぶ力」と「体の力」の取り組み^{3) 4)}

- ① 「読み」～1歳からひらがな、カタカナカードの活用（カードは公文式を活用2歳から絵本の読み読み）
- ② 「書き」～3歳からひらがな、カタカナ書く
- ③ 「計算」～3歳からすうじとかず4歳からかずの合成と分解

- ④ 「体操」～走る、飛ぶ、ぶら下がり、ボール遊び等
- ⑤ 「音楽」～3歳でピアノ
4歳から曲を増やす
5歳からいろいろな楽器に挑戦
- ⑥ 「絵画」～2歳からぬり絵
- ⑦ 3歳からパズル、ブロック遊び
これらのより良い刺激により脳が作られる。

4. 「心の力」の取り組み

東北大学の川島隆太教授によれば、基本的生活習慣こそが「心の力」が身に付くと述べている。

又脳科学者と子育て研究会の先生方²⁾や故教育哲学者、森信三先生によるとより良い生活習慣とは次の3点を上げている。⁷⁾

- ① 他人が手を出さず、自ら取り組み習慣化できるもの。
- ② 大人になって困らないためのもの
- ③ 一つ的生活習慣が他にも広がるもののように注意

具体的には、次の4点が最も大切と述べている。

- A) 呼ばれたら大きな声で「ハイ」
- B) 起きたら「おはよう」
- C) 「くつ並べ」
- D) 「早寝早起き朝ごはん」

私は幼児教育で6年間基本的生活習慣の中の4項目を重点に実践してきた。実践の結果「子供たちが朝起きておはようといえるようになった。」「名前を呼んだらハイと答えるようになった。」「家に帰ったら自分で靴を並べるようになった。」等、保護者や先生方が述べている。

一方、基本的生活習慣は身に付いても、わがままや、自分中心の言動や行動により、子供同士のけんかが絶えないという意見が保護者や先生方から聞かれた。

思いやりの心や、思慮反省の心をどう育てるかが大きな課題となってくる。

そこで、井之上喬によるパブリックリレーションズの「自己修正」理論をもとに取り組むことにした。高い価値観のもと、自らの意見を主張し、相手の意見も聞く。そして、自分が間違っていたら謝るという自己修正力を幼児期から育てることが、「心の力」につながると思う。思いやりや思慮反省の価値を含んだ絵本を通して取り組むことにした。

5. 思いやりと思慮反省の価値を含んだ絵本の取り組み

～取り組み～

- (1) 絵本名「なかなおり」⁶⁾



- (2) 価値

- 「相手のことを思いやる」
(思いやりの心)
- 「悪いと思えばごめんさい」
(思慮反省)

- (3) 内容について

相手の気持ちを考え、悪いと思えばごめんなさい。幼児期の子どもに思いやりの心を育てるのに適した絵本である。クマさんの自己中心的な行動が相手ビーバーを困らせる。そこにリスばあさんやってきて「なかなおり」の方法を教えてくれる。心の変化が読み取られ、思いやりの心が育む絵本である。又、歌を歌うことで日常生活に生かされると思う。「3つ子の魂100まで」幼児期に思いやりの心を育てる事は重要であり、この絵本は幼児期の子供たちに的を得た内容になっている。

- (4) 展開・発問

発問1, どんなことでけんかになりましたか。

発問2, どうしたら「なかなおり」できましたか。

<絵本を読む>

発問3, クマの気持ちを考えよう。

発問4, ビーバー君の気持ちを考えよう。

発問5, クマ君は勇気を出して、何と話したのだろう。

発問6, ビーバー君はどう思いましたか。

<なかなおりをするには、どんなことが大切だろうか。>

発問7, 歌を歌ってみよう。

絵本を通して思いやりの心と、過ちがあったらごめんなさいと謝るという「心の力」を身につけさせたい。

(5) 考察

- 実施日 平成29年10月7日
- 5歳児15名（男子7・女子8）
- 日頃絵本に親しんでいる子供たちは「なかなかおりの」の新しい絵本を先生と一緒に学ぶことに大変興味を示した。先生の発問に全員が自由に意見を述べていた。
- 子供たちは自己中心的なクマさんの気持ちになりきっていたが、リスばあさんの歌により相手の気持ち、ビーバーの気持ちを考えるようになった。やっぱり木を持って行って謝りに行こうという価値を捉えていた。
なかなかおりをするには、相手を思うこと間違っていたらごめんなさいという価値を捉えていた。
- 日頃けんかをしている子供たちは、けんかをしない方法を絵本を通して学んだと思う。
- 5歳児の幼児でも、この価値を捉えられたことに驚くばかりであった。

6. おわりに

幼児教育の在り方についてはさまざまな考え方があり
さまざまな取り組みが実施されている。

私はMRIによる脳科学者および教育哲学者の考えを元に
取り組んできた。臨界期において6つの領域により良い
刺激「読み」「書き」「計算」「体操」「音楽」「絵
画」「ブロック・パズル」を与えれば「学ぶ力」「体の
力」が身に付く事が実証できた。

一方課題として「心の力」を身につけさせる為には基
本的生活習慣の徹底により生活習慣は身に付く。しかし、
人間として一番大切な思いやりの心や思慮反省について
は、その価値を含んだ絵本による手法が一番効果的だと思
う。長深田教育再生研究所では「心の力」を求め今後
この手法で取り組みたい。

これから生きる子供たちは3つのちから「学ぶ力」
「体の力」「心の力」を身につけなければこれからのグ
ローバル時代を生き抜くことができないと痛感する。

参考文献

- [1] 澤口 俊之著 脳教育 2.0 講談社
(P58・P79～82・P101～104)
- [2] 脳科学と子育て研究会著「6歳までに我が子の脳を育てる
90の方法」講談社(P40～88・P60)
- [3] 川島 隆太著「脳を育て、夢をかなえる」くもん出版
(P80・P98)
- [4] 川島 隆太著「子供を賢くする脳の鍛え方」小学館
(P13～27)
- [5] 井之上 喬著「パブリックリレーションズ」日本評論
社,2015
- [6] カビリナ著 井之上 喬・長深田 悟監修「なかなか
おり」朝日小学生新聞, 2018
- [7] 月刊黙 森 信三「心の教育を求めて」1994年9月

EDUCATIONG YOUNG CHILDREN TO NATURALLY UNDERSTAND AND APPRECIATE OTHERS IN A GLOBAL AGE

Satoru NAGAFUKATA

According to brain scientists, the brain growing in the mother's womb will weigh 400 grams at birth, will grow to 1250 grams by the age of 8, and will reach 1350 gram as an adult. That means that a brain will be 90% complete by the age of eight. Therefore, I think the period from birth to the age of 8 is a critical peri-od for human beings, and therefore requires good stimulation to develop the brain. The Nagafukata Educational Revitalization Research Institute tries to achieve better stimulation for the brain of young children through "reading" "writing" "arithmetic", "gymnastics", "music", "painting", "puzzles and blocks" for both improved "Learning Power" as well as "physical strength." In order to acquire "the power of the mind" Professor Ryota Kawashima of Tohoku University, and the late Professor Mori Shinzo stressed thoroughness of "basic lifestyle," which is the concept behind Dr. Takashi Inoue's picture book that communicate his "self-correcting theory" in Public Relations and which is discussed in detail here.